



Ho! ManaBU しんぶん

2011.4.25 No.29

子どもの笑顔に会うために！



□ オロミア州

計画策定の過程は？

～ 第3年次HM研修「計画策定」に向けて始動！～

第2年次のHo! ManaBUワークショップが終わって、あっという間に半年が経過し、各学校やCRCから「Discover Our School」研修の実施報告書が上がってきています。そんな中、次年度のHo! ManaBU研修(HM研修)となる「計画策定」の開発に向けて準備に入りました。研修内容やガイドラインを作成するにあたり、プロジェクト内でいろいろと議論をしてきたのですが、まずは、やはり学校レベルでの計画策定の現状を知る必要があるという結論に至り、フラ・ハウイ・バシャドゥの三人がそれぞれ担当校(パイロットCRC)を決め、各学校の計画策定過程を追っていくということになりました。ちょうど、学校が5月上旬～6月下旬にかけて計画策定を行なう時期に入ることもあり、3人で手分けして学校を巡回しています。現時点で、北ショア県のスルルタ特別市のスルルタ小学校とワサビ小学校、東ショア県ルメ郡のエジェルサ小学校を訪問し、校長、CRC担当官、郡・特別市教育事務所(WEO/STEO)のフォーカルパーソンに対して聞き取り調査を行ないました。この聞き取り調査では、主に学校の計画策定過程について情報収集をしたのですが、今の段階でも非常に興味深い調査結果が出てきました。

まず一つ目は、3校ともそれぞれ違う計画策定過程を踏んでいることです。県が違う学校であればある程度理解できるのですが、同じスルルタ特別市にある2校でさえ、違うプロセスを踏んでいるということはどういったことなのか、もう少し調査する余地がありそうです。特に、どこの学校でも計画策定の際にマニュアルを使用しているとのことでしたが、このマニュアルが同じマニュアルを指すのか、そのマニュアルにはどのような手順が示されているのか、計画策定はマニュアル通りに行なわれているのかなどを知るためにも、現在学校が活用しているマニュアルをしっかりと読み込む必要があります。

もう一つ、今回の調査で課題として浮かび上がってきたのは、「計画の実現可能性」の問題です。一見、計画自体は立派なものできているのですが、その計画の内容が果たして実現可能性の高いものなのかということです。結局、現在作られている計画は、希望リズ的なものになっていて、1年間で達成できなかった活動を次の年度に持ち越すというのが当たり前のようです。計画とはそもそも、活動を具体的に実施するためのものであり、計画に対する認識も再確認できるようなHM研修及び計画策定ガイドラインの開発を模索する必要がありそうです。

新局長の就任

これまでしんぶんでも何度かお伝えしてきましたが、オロミア州教育局(OEB)の頻繁な人事異動には頭を悩まされています。実は昨年10月に着任したばかりのエシェトゥ OEB 局長がわずか半年で、先月に離任し、新しくダダ・デベレ氏が新局長として就任しました。エシェトゥ前局長は、Ho! ManaBU に大変興味を示し、局長自身が HM 研修の視察を予定していた週に離任してしまうことが決まり、プロジェクトとしても非常に残念です。

しかしながら、新局長も、Ho! ManaBU に高い関心を示しており、就任してすぐにプロジェクトスタッフと1時間も会談を持ってくださいました。その中で、プロジェクトも新局長にプロジェクト活動を伝えるため、ラップトップを持参し、急遽パワーポイントでプロジェクトのワンポイントレッスン！



プロジェクトに関する説明を受ける
ダダ新局長

今後、OEB 主体計画を進めるにあたり、計画策定メンバーが HM 研修視察をできるようにスタディーツアーを計画しており、その際には是非とも新局長にも参加してもらいたいと考えています。

*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

ODA 謝礼式、アセラの2校で開催！

Ho! ManaBU では、学校現場での好事例やHM 研修の実践報告、教育情報の共有を奨励するため、昨年9月から投稿雑誌「ODA (オダ)」の発行を開始しました(しんぶん 21号参照)。プロジェクトでは、投稿のあったCRC や学校への感謝とこれからの一層のよりよい学校づくりへの励ましの意を込めて、ODA (オダ) 謝礼式で児童へ絵の具や画用紙を贈呈することにしていきます。

まずは、アセラ特別市のアセラCRC。同CRCのモハammad担当官は一押しの進行役で、先日、ファシリテーション・レベル1に認定されました。その秘訣は?という、「研修マニュアルを暗記するほど繰り返し読むこと」だそうです。研修視察をするたびに「なぜこんなにきちんと理解しているのかな?」と思っていたのですが、実はマニュアルの熟読という努力があったのですね。モハammad担当官曰く、「マニュアルをきちんと読めば、これほど楽しい研修はない。」とのことでした。

一方、同市のリマット・ベヒブラットCRCでは、地域住民のHM研修への参加を奨励するための工夫。この学校では、成績不振の児童の保護者を対象に学年ごとの会合を開いていますが、これにあわせて「中途退学」や「女子教育」のHM研修も続けて実施しています。その結果、中途退学や欠席者が減少し、女兒補講クラスの出席率もグーンとアップしたそうです。地域住民の研修参加への働きかけは、苦勞している学校が少なくないのですが、本学校のこのような取り組みは大変参考になります。CRC担当官、校長、主任のチームワークも抜群で、研修進行の呼吸もぴったり。そこで、プロジェクトでは、3名をファシリテーション・レベル1にも認定し、ODA (オダ) 謝礼式にあわせて、ファシリテーション認定式も行い、HMジャケットを贈呈しました。パイロット校での様々な取り組みはODA (オダ) を通じてこれからもどんどん関係者に共有していきます。もちろん、しんぶんでもご紹介していきます。お楽しみに!



モハammad CRC 担当官 (左) とエジガエフ校長。アセラ小学校にて。



バイエネ校長 (右) とエヒテ CRC 担当官。リマット・ベヒブラット小学校にて。

プレスツアーによる取材

3月9日~11日、在エチオピア日本大使館主催のODA (Official Development Assistance) プレスツアーが開催され、Ho! ManaBU プロジェクトもその対象の一つとなりました。本ODA プレスツアーには、エチオピア国内の主要なテレビ局・ラジオ局・新聞社の総計14名が参加しました。

まずは3月10日午前、OEBの会議室にて、レディブル副局長の歓迎のあいさつに続いて、プロジェクトのこれまでの活動や成果・課題などパワーポイントを使って説明し、Ho! ManaBU の概要を知ってもらいました。同日午後、アルシ州アセラ特別市に移動し、翌11日にアセラ小学校を訪問し、地域住民を対象としたHM研修の視察・取材が行われました。前日のOEBの会議室の説明において「ゲームスタイルという新しいアプローチは、地域住民に受け入れられるのか?」という懐疑的な質問をしていたテレビ局のライターも、地域住民の笑顔や活発な討論にビックリ!という顔でした。プレスツアーのほとんどのメンバーが、オロモ語を理解できないため、本研修はアムハラ語も併用して行われました。



HM研修の参加者(地域住民)が発言するたびに、テレビ局のカメラや新聞社のカメラが何台も近づいてくるといふ異様な雰囲気に関わらず、参加者は堂々と議論を続けていました。HM研修後には、進行役を務めたCRC担当官や、アシスタント役の校長、地域住民などへのインタビューが行われました。もちろん、フラハのインタビューもありましたが、どのライターからもインタビューを始める前に、「Congratulation」「素晴らしい」とHM研修の効果に賞賛の言葉を頂きました。「学校の警備員に、HM研修を知っているか?と尋ねたところ、まるで自分の研修みたいに、その方法や、中途退学者や欠席者が減った成果まで説明してくれたよ。大したものだね。」さすがは報道関係者。警備員にまでインタビューするとは・・・。

とにかく、プレスツアーに参加したみんなも満面の笑みで、HM研修の効果を実感してもらえ、とても充実したプレスツアーでした。